

文部科学省 選定  
第3回世界水フォーラム参加作品



監督 牛山真一  
鶴見辰吾/純名りさ/四方堂亘・鈴木晋介/  
岡代淳子・剛州・堀ひろこ/寺田 農

●声の出演●  
磯部 弘/青野 武/高木早苗/幸野善之

# 明日をつくった男

～ 田辺朔郎と琵琶湖疏水～

製作■伊藤 敏 プロデューサー■森井俊行 企画プロデューサー■寺島鉄夫 原作■田村喜子(「京都インクライン物語」山海堂刊) 脚本■関口 準 キャラクターデザイン■内田春菊 アニメーション演出・  
絵コンテ■有原誠治 撮影■青木淳二/久坂 保 制作協力■株式会社フランコ・ビュー・カンパニー 配給■有限会社関西プロデューサーズ 特別協賛■京都府・京都市・京都商工会議所  
製作■虫プロダクション株式会社 スタandardサイズ ステレオ 86分



# IT IS NOT HOW MUCH I DID, BUT HOW WELL DO.

～どれだけ頑張ってきたかではなく、これからどれだけのことをやれるか、それが大切である～

(田辺朔郎の恩師、ヘンリー・ダイヤー教授の言葉)

## 解説

「山紫水明」とうたわれ、古き良き財産と新しさが混在するまち、京都。

「哲学の道」や桜並木の「琵琶湖疏水」もまた、観光名所であり市民の憩いの場のひとつです。

明治のはじめ、維新の傷跡を深く残し、東京遷都による衰退の危機にあった京都が近代都市として再生を果たす契機となった琵琶湖疏水工事。

この工事を指揮したのが、20代の若きエンジニア、田辺朔郎(1861～1944)でした。

映画は、100年先の未来をも見据えて前代未聞の難工事に挑んだ明治の人びとの気概や工事の様子、琵琶湖疏水の現在の姿をアニメーション、CG、そして実写を織りまぜながらわかりやすく描いていきます。

制作は、数多くのアニメーションの秀作を生み出してきた虫プロダクションです。

## あらすじ

雲ひとつない青空が広がったある日の午後。

大手広告代理店の会議室では、スクリーンが張られて社内プレゼンテーションが行われていた。この日は「世界子ども博覧会 夢プラン・ネクスト100」のイベントテーマ提出の締切りである。一度は決まったテーマに納得しきれない企画部のメンバーが、どうしても最後に提案をと籙木社長(寺田農)のもとにおしかけたのだった。

企画書の表紙に書かれた「田辺朔郎」という名前に籙木の目が止まった。

大場鉄郎(鶴見辰吾)の合図でスクリーンに水紀(語り・純名りさ)が現れ、現在の琵琶湖疏水が紹介される。

やがて、水紀の案内で、映像は田辺朔郎が生きた明治時代へと移り、アニメーションやデータベースを交えたドキュメント映像で、朔郎が京都の一大事業、琵琶湖疏水建設事業の工事主任となって活動する姿や当時の工事の様子を追っていく。当時の技術では無謀、不可能と誰もがその成功を危ぶんだ難工事に、技術と決断力をもって勇敢に挑んだ当時の人たち。そこには、新しい未来を自分たちの手で築こうとする明治の人びとの気概があった。

その魅力を、朔郎の姿を通して21世紀をにう子どもたちに伝えたいと、大場たちの説明にも熱がこもっていく……。



## 明日をつくった男

～田辺朔郎と琵琶湖疏水～

### 〈製作支援委員会〉

高橋 裕(第3回世界水フォーラム運営委員・世界水会議理事)  
中川博次(第3回世界水フォーラム運営委員・京都大学名誉教授)  
田村喜子(「京都インクライン物語」著者)

### 〈キャスト〉

鶴見辰吾/純名りさ/四方堂亘・鈴木晋介/  
田代淳子・剛州・堀ひろこ/寺田 農  
●声の出演  
磯部 弘/青野 武/高木早苗/幸野善之

### 〈スタッフ〉

製作/伊藤 勲  
監督/牛山真一  
プロデューサー/森井俊行  
企画プロデューサー/寺島鉄夫  
原作/田村喜子(「京都インクライン物語」山海堂刊)  
脚本/関口 準  
キャラクターデザイン/内田春樹  
アニメーション演出・絵コンテ/有原誠治  
撮影/青木淳二・久坂 保  
製作/虫プロダクション株式会社  
制作協力/株式会社フラミンゴ・ビュー・カンパニー  
配給/有限会社関西プロデュースセンター  
特別協賛/京都府・京都市・京都商工会議所  
参考文献/三好信浩「ダイアラーの日本」  
横川紀子「明治・京都発 日本近代化の  
グランドデザイン」  
(東京電力科学情報誌 イリュウム第23号)